

大分県大分市

【3期計画：平成30年4月～平成35年3月】

- ・中世～：大友氏の時代に「豊後府内」と呼ばれるようになり、近世では、府内城を中心に城下が建設され、現在の大分市の中心部となる。
- ・昭和～：戦災を受けたが、復興後の区画割りもかつての城下町の面影を残す基盤目状となっている。かつて路面電車が走っていた市道中央通り線は現在もバス路線が集中するなど、この路線を中心に様々な機能が集積し発展してきた。
- ・人口478,491人(平成29年3月末現在、住民基本台帳人口)、面積502.38km²

【前期計画(平成25年4月～平成30年3月)の概要】

- 大分駅付近連続立体交差事業、JR大分駅ビルや大分県立美術館整備事業等の完了により、その効果が平成27年度までは目標指標に大きく貢献した。
- 平成28年度以降は、開業効果の収束に加え大型商業施設の一時閉店や空き店舗数の増加も重なり、小売業年間商品販売額や歩行者通行量は未達成が見込まれ、中心市街地全体での活性化を図る必要がある。

【中心市街地の課題等】

- 中心市街地全体への商業活力や賑わいの拡大
中心市街地へ赴く主な目的は大型店での買物であり、固有の歴史、文化等を持つ地元商店街の魅力を向上させ、来街者の個店への来訪を促すためにも、幅広い世代のニーズに対応した多様な業種で創業できる環境づくりが必要である。
- 来街者や居住者の行動範囲の拡大
中心市街地内において中央通りを挟んで西側エリアに比べて東側エリアの歩行者通行量が少なく、東西を往来する横断者数が減少しており人の流れが限定的となっていることから、全体の回遊性の向上を図る必要がある。
- 東九州の玄関口としての連携・交流・おもてなしの強化
大分都市広域圏の中心市として、広域的な連携や交流の先導的役割を果たし、本市のみならず近隣市町村の発展にも繋げるため、交流人口の拡大を図る必要がある。

【目指す中心市街地の都市像】

県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり
 ～多様な「もの・ひと・しかけ」で人々を惹きつけるまち～

【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値 ※()は目標値の達成見込
激変する商業環境へのエリアマネジメントによる経営戦略の構築	小売業年間商品販売額	804億円 (H23)	880億円 (H29)	886億円 (H28:未達成見込)
変化するまちと既存ストックの連続性による魅力の向上	歩行者通行量 (土・日の合計)	291,535人 (H23)	350,000人 (H29)	343,653人 (H28:未達成見込)
コミュニティ連携による新たな賑わいのスキーム構築	まちなか滞留時間 (3時間以上滞在した人の割合)	32.2% (H23)	40.0% (H29)	52.0% (H28:達成見込)

【新計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値
伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化	空き店舗率	11.1% (H28)	4.6% (H34)
魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上	中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)	32,832人 (H28)	37,000人 (H34)
	中心市街地循環バス「大分きゃんばす」年間利用者数	60,931人/年 (H28)	65,000人/年 (H34)
多様な都市ストックを活かした交流機会の拡大	主要文化交流施設※年間利用者数	3,902,363人/年 (H28)	4,180,000人/年 (H34)

※ホルトホール大分、コンパルホール、アートプラザ、大分県立美術館、大分市美術館の5施設

伝統と革新の調和による まちなか商業の活性化

- 【主要事業】
- ・小規模事業者競争力強化支援事業
 - ・まちなか出店支援事業
 - ・旧大分フォーラスビル建替事業
- など

魅力的な都市空間の創出による 回遊性の向上

- 【主要事業】
- ・大分市中心市街地祝祭広場整備事業
 - ・交通安全事業 国道197号(昭和通り工区)
 - ・中心市街地循環バス「大分きゃんばす」運行事業
- など

多様な都市ストックを活かした 交流機会の拡大

- 【主要事業】
- ・大分市中心市街地祝祭広場整備事業(再掲)
 - ・まちなかアートフルロード推進事業
 - ・自治体情報発信拠点づくり促進事業
- など

大分市中心市街地活性化基本計画の事業概要

伝統と革新の調和による まちなか商業の活性化

①小規模事業者競争力強化支援事業
小規模事業者が行う持続的な成長に向けた地道な販路開拓等の取組や、業務効率化の取組、販路開拓等と業務効率化を一体的に行う取組に要する経費を補助する制度を創設し、商店街の個店をはじめとする小規模事業者の魅力向上と競争力強化を図る。



中心市街地の商店街の様子

②まちなか出店支援事業

商工会議所等と連携し、中心市街地で事業意欲のある商業者や起業家に対して、空き店舗への出店や起業に関わる経費の一部を補助し、まちなかの魅力向上を図る。

③旧大分フォーラスビル建替事業

ビルの老朽化や耐震改修に伴い、旧大分フォーラスビルの建替えを実施し、新たな商業施設としてオープンすることで、まちなか商業の活性化を図る。

多様な都市ストックを活かした交流機会の拡大

⑦まちなかアートフルロード推進事業

市美術館と大分県立美術館や各種関係団体等が連携し、中心市街地を含むエリアで気軽にアートを楽しめる機会を提供することにより、アートによるまちなかの回遊性を創出し、交流人口を増加させる。

⑧自治体情報発信拠点づくり 促進事業

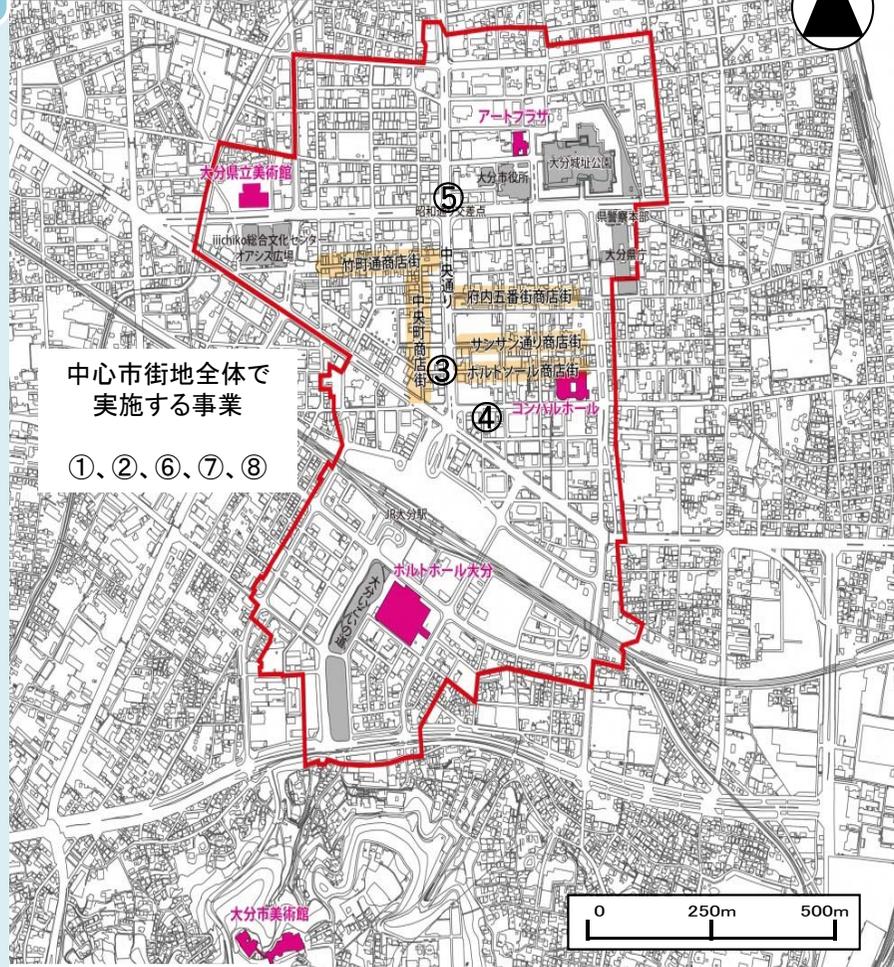
希望する県内自治体が大分市中心市街地において特産品や農林水産物の販売、観光・イベント等のPRが出来る情報発信拠点を設置し、中心市街地の活性化と交流人口の増加を図る。



自治体情報発信拠点

中心市街地区域：153 ha

中心市街地の人口 18,477人(H29年3月)



中心市街地全体で
実施する事業

①、②、⑥、⑦、⑧

魅力的な都市空間の創出による 回遊性の向上

④大分市中心市街地祝祭広場整備事業
旧大分パルコ跡地を、平成31年秋のラグビーワールドカップ2019日本大会開催を見据え祝祭広場として整備し、回遊性の向上と交流人口の増加を図る。



祝祭広場の整備イメージ

⑤交通安全事業 国道197号(昭和通り工区)

昭和通り交差点において、イベントや時期によって柔軟に対応できるオープンスペースとしての再整備を行うとともに、安全性・快適性を考慮した自転車歩行者道の整備を行う



昭和通り交差点の整備イメージ

⑥中心市街地循環バス「大分きゃんぱす」 運行事業

商店街を含めた中心市街地全体の回遊性の向上、誰もが円滑に移動できる交通環境の実現を目的に、ホルトホール大分、オアシス広場・大分県立美術館、市役所・県庁を經由する循環バスを運行する。